

平成 29年度（28年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	コンパクトで魅力ある都市空間の形成		課(室)名	まちづくり企画課
	施策	多核連携型コンパクト・エコシティの推進		電話番号	087-839-2136
	基本事業	適正な土地利用の推進		事業実施主体	市
	事務事業	多核連携型コンパクト・エコシティ推進事業		事業期間	平成 28年度～平成 35年度

【事業全体概要】

事業の概要	平成 25年 2月に策定した多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画に基づき、集約拠点への都市機能の集積と市街地の拡大抑制による、コンパクトで持続可能な都市構造「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を目指す。				
29年度概要	立地適正化計画策定業務 高松市コンパクト・エコシティ推進懇談会開催（3回） 立地適正化計画素案説明会 国（国土省）協議（1回） 地図レイヤー作成 多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画改定業務				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	2-	事務事業の類型	内部管理事務

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	人口減少・超高齢社会を見据え、30年、50年後においても、活力を失わず、市民がいきいきと暮らせるよう、集約拠点への都市機能の集積と市街地拡大を抑制し、コンパクトで持続可能なまちづくりを進める。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H26	H27	H28	H29	中期目標 H30
コンパクト・エコシティ推進計画に掲げる（実施済（継続分）	事業			49	50	52

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H26	H27	H28	H29	中期目標 H30
成果指標	用途地域内の人口比率	%	目標値			64.1	64.1	64.2
			実績値			63.9		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 前年度と比べ0.1%減少しており、目標値の達成には至っていない。 (目標達成度)							(達成度) 99.7%
								34点
成果指標	中心市街地の居住人口の割合	%	目標値			5	5.1	5.1
			実績値			4.8		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 人数としては、前年度から24人増の20,666人と微増であり、着実に進捗しているものの、居住人口の割合としては前年度と同値の4.8%であり、目標値の達成には至っていない。 (目標達成度)							(達成度) 96.0%
								33点

【コストの推移】

指標名	単位	平成 26年度（決算）	平成 27年度（決算）	平成 28年度（決算）	平成 29年度（予算）
トータルコスト	[円]	12,037	44,005	30,906	26,717
（事業費）	[円]	227	31,722	14,419	5,519
（職員人件費）	[円]	11,810	12,283	16,487	21,198

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

平成 29年 3月に高松市立地適正化計画（仮称）【素案】を策定した。今後は誘導区域へのインセンティブ施策等について、先進地の事例を研究するなど、本市が今後取り組むべき施策事業を整理し、計画の成案化に向けて取り組む必要がある。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

市民や関係事業者等との合意形成を図りながら立地適正化計画を策定していくとともに、現行のコンパクト・エコシティ推進計画との整合性を図る必要がある。その中で、人口減少・超高齢社会を見据え、30年後、50年後においても活力を失わず市民がいきいきと暮らせるコンパクトで持続可能なまちづくりを実現するために継続して事業を推進していく。